



萩須高德「オー・ボン・ヴィヴァン」1972年 稲沢市萩須記念美術館

OGUISS 特別展 没後20年 1901-1986 萩須高德展

同時開催 小磯良平作品選Ⅲ

2006 8月5日(土) ▶ 10月9日(月) 祝

入館料 一般/800円(600円)、高大生/600円(400円)、小中生/400円(200円)

※()内は30名様以上の団体
 ※65歳以上で神戸市老人福祉手帳(すこやかカード)所持の方は400円
 ※KOBÉ観光の日(10/3)は無料開放

休館日 毎週月曜日(ただし9/18、10/2、10/9は開館、9/19は休館)

開館時間 午前10時～午後5時(入館は4時30分まで)

主催 神戸市・神戸市立小磯記念美術館・稲沢市萩須記念美術館・神戸新聞社

後援 フランス大使館、NHK神戸放送局、サンテレビジョン、ラジオ関西、全国美術館会議

神戸市立小磯記念美術館 | 〒658-0032 神戸市東灘区向洋町中5-7 TEL.078-857-5880

http://www.city.kobe.jp/cityoffice/57/koiiso_museum/

のじぎく兵庫国体スポーツ芸術事業



特別展 没後20年 OGUISS 1901-1986

OGUISSの名前で国際的に広く知られる洋画家・荻須高德（1901～1986）は、生涯の大部分をフランスで暮らし、パリの街並みを風情ある筆致で描いた画家です。このたびの特別展「没後20年 荻須高德展」は、日本とフランスの近代絵画に大きな足跡を残した荻須の画業を、顧みようとするものです。



荻須高德 1963年

荻須高德は1901（明治34）年、現在の愛知県稲沢市に、地元有数の地主の家産の二男として生まれました。少年の頃から絵を描くことに熱心で、愛知県立第三中学校卒業後に上京し、1922（大正11）年、東京美術学校に入学します。同級生には、小磯良平をはじめ、猪俣誠一郎、中西利雄などそうそうたる顔ぶれが揃っていました。美術卒業の1927（昭和2）年、荻須は、同級生・山口長男とともにフランスに渡ります。以後はパリに定住して古い建物や裏通りなどを題材に創作活動を行い、ヨーロッパ各地で高い評価を得てゆきました。

その後、第二次世界大戦の勃発にも関わらず、1940（昭和15）年には日本に帰国しますが、戦後の1948（昭和23）年、日本人画家として最も早くフランス入国を認められます。そして、再びパリで絵筆を握るとともに日仏の文化交流にも努め、1956（昭和31）年には、フランス政府からシュヴァリエ・ド・ラ・レジオン・ド・ヌール勲章を授けられています。生涯、パリを深く愛し、その風情を描き続けた荻須高德は、1986（昭和61）年、惜しまれつつ世界を去りました。同年、日本政府から文化勲章が贈られています。

画家の没後20年を機に開催される本展は、初期から晩年に至る90点余の荻須高德の油画の流れを概観するもので、稲沢市荻須記念美術館との共同企画です。温かい眼差しと筆致で、パリの心を捉えた荻須芸術の世界を、どうぞお楽しみください。



「ポスターの壁」1930年



「ガレージ」1930年



「モンマルトル裏」1940年
東京国立近代美術館



「中庭」1954年 大原美術館



「モンマルトルの食料品店」1956年
岐阜県美術館



「金のかたつわり」1978年
稲沢市荻須記念美術館



「サン・ドニ」1964年 愛知県美術館

会期中のイベント

- 講演会／「OGUISSの描いたパリ」講師/山田美佐子氏（稲沢市荻須記念美術館学芸員）
9月3日（日）午後2時～ 当館2F絵画学習室にて（定員80名）
- 美術館大作戦2 荻須さんが愛したパリ みんなが気づけたRIC風景
8月11日（金）、12日（土）、15日（火）10時半～16時
小1～中3とその家族（大人2人まで）。各回25名募集（詳細はお問合せください）
- ロビーコンサート／9月23日（祝）午後2時～ 神戸市室内合奏団による
- 解説会／毎週日曜日（9/3除く）午後2時～（約30分）当館2F絵画学習室
- アトリエ解説／毎日午前11時と午後2時から（約20分間）
※ただしイベント開催時は変更して行います。

次回の展覧会のお知らせ

特別展「西村元三朗回顧展」（展示室2.3）/小磯良平作品選Ⅳ（展示室1）
2006年10月14日（土）～2007年1月14日（日）



美術館の地下には市営駐車場（有料）があります。